

カタルパの樹とは

カタルパの樹（日本名アメリカキササゲ）は、京都の同志社の創設者である新島襄がアメリカから持ち帰ったもので、熊本出身のジャーナリスト徳富蘇峰にその苗が譲られ蘇峰が創設した大江義塾（熊本市）に植えられました。大江義塾で蘇峰と平田一十は子弟関係にありましたが、のちに一十が合志義塾を開いたことを聞きつけ、蘇峰はカタルパの苗を譲り渡しました。現在、この樹は「文教の地・合志」の象徴として市内の小・中学校にも植えられています。毎年5月になると白い花を咲かせます。



合志義塾跡

合志義塾跡には、昭和50年私塾合志義塾同窓生一同により記念碑が建設されています。その横で、カタルパの樹が碑を見守っています。

※私有地のため見学の際はご注意ください。



主人公 工藤 左一

ひらた いちじゅう 平田 一十

ムツ スギ

郷土の歴史マンガ完成

Catalpa 合志義塾ものがたり

明治25年西合志村黒松に誕生し、昭和24年の閉塾までに約7,000人の卒業生を輩出した私塾「合志義塾」。若き教師「工藤左一」と「平田一十」が合志義塾をつくるまでの物語を、郷土の歴史マンガとして作成しました。

カタルパの樹 ～合志義塾ものがたり～ 完成イベント開催

完成発表会・贈呈式

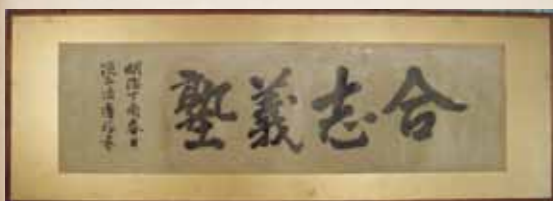
マンガ製作の経過説明や、市内小・中学校への贈呈式を行います。誰でも出席できます。

- とき 4月22日(火) 午前10時～
- ところ 西合志図書館集会所

完成記念 合志義塾展

合志義塾のあゆみを関連資料やパネルで紹介いたします。

- とき 4月22日(火)～6月1日(日) 午前10時～午後5時(休館日を除く)
- ところ 西合志郷土資料館(西合志図書館隣)
- 入館料 無料



合志義塾 扁額

このマンガは自然や文化、歴史などを地域資源として発見し積極的な活用を図ることを目的としたコミュニティ助成事業により制作しました。コミュニティ助成事業は、宝くじ普及広報事業費を財源として財団法人自治総合センターが助成決定を行なうものです。本市の誇れる歴史を子どもたちに分かりやすく伝え、郷土愛を育むきっかけとして活用します。4月22日(火)から市の施設や図書館に配置する予定です。ぜひご覧ください。



問い合わせ先 生涯学習課(ヴィーブル) ☎248-5555

農民のための学校をつくらう

合志義塾は、合志郡西合志村黒松に教育の機会に恵まれない農村子弟のための私塾として設立されました。明治25年の開塾時は女子2人を含む25人の生徒でスタートしましたが、生徒数は増え続け、昭和24年の閉塾までの58年間に約7,000人が学ぶ、県内でもあまり例を見ない学校でした。

「自由と規律」「子弟同行」などの精神を元に、生徒を5つの学団(グループ)に分け、リーダー(団監)主導で行事を行なうなどユニークな教育方針が評判を呼び、遠くから学びに来る生徒も多数いました。卒業生からは多くの篤農家が誕生し、また教師・医師・軍人、海外へ進出する人など、各界の重要人物も多く輩出しています。このように合志義塾は合志の農業の発展にも深く関わり、地元可愛される学校でした。

今回作成したマンガでは、明治10年の西南戦争を背景に、主人公の工藤左一と平田一十が「黒松に農民のための学校を作る」という夢を持ち、合志義塾を開塾するまでを2人の成長と共に描いています。

歴史を通して郷土愛を育てる

「合志」という地名は1300年前の西暦713年(和銅6年)の好字令に命名されたと言われており、本市はその歴史と共にあります。竹迫城や合志義塾など後世に残したい多くの歴史や文化がありますが、子どもたちが学習できる教材や機会は十分ではありませんでした。本書ができたことは大変うれしいことです。



教育長 高村 秀夫

今回、合志義塾の卒業生の皆さんから多くのことを聞くことができました。明治時代、合志郡の田舎にありながら目指す先は世界に大きく開き、新しい教育のあり方を切り開いた工藤左一、平田一十両先生の教育への情熱とロマンを感じずにはおられません。子どもたちが楽しく学び、郷土に対する自信と誇り、郷土を愛する心を育てていく教材になることを楽しみにしています。